平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	生涯スポーツ演習 (Lifelong Sport Activites)			授業コード	E048451
担当教員名	永松　昌樹			科目ナンバリングコード	E20711
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	○テキストは、講義に必携すること。 ○演習ノートの作成は手書きとし、A4版レポート用紙の左上をステーブル等で留めること。				
受講心得	○経営経済学部の定める「受講心得等」を守ること。				
教科書	スポーツルールの論理・守能信次著・大修館書店				
参考文献及び指定図書	スポーツに遊ぶ社会にむけて・島崎仁著・不昧堂出版 スポーツとルールの社会学・守能信次著・名古屋大学出版				
関連科目	生涯スポーツ論				

授業の目的	「多様異質なる個人的・社会的特有を有しているすべてのひとり一人が、各自あるいは共同し、生涯にわたって主体的にスポーツ環境に働きかけつつ、スポーツ環境に働きかけつつ、スポーツ経験を自立的に改造享受する文化的行動過程の総体である。」(島崎仁、1988)。人生百年時代とも評される日本社会にあって、生涯スポーツは人間とスポーツの関係を再考する有益な概念でもある。この科目では、スポーツルールの論理を軸に生涯スポーツについて論考する。 受講生の身近な遊びからスポーツとルールの関係性を理解することを出発点とし、生涯スポーツ社会の実現に向けた課題と解決策を論理的に説明できる能力を獲得することが到達の目標となる。
授業の概要	この科目では、予習→講義→復習により、各回の演習ノート提出が求められる。 予習では、1時間程度の学習が要求される。シラバスに示したテキスト部分を読み終え、毎回の鍵概念と自身の生活との関係についての感想と意見をまとめることが必要となる。講義時において、各自の感想と意見を発表することが要求される。 90分の講義では、スポーツルールの論理と鍵概念の理解を深める。また、受講生各自が予習によって持ち寄った疑問を取り上げ、復習において受講生各自で作成する演習ノートの課題として提示し、解決方策を考えるうえで有用と考えられる統計などの情報を提供する。 復習では、A4版レポート用紙(2ページ分)の演習ノートを作成する。 1)予習から講義を経て得られた知見を記載する。 2)課題について具体的な提案を実証的根拠も含めて論述する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : 生涯スポーツ演習の学び方 ルール機能論　ルール構造論	教科書の準備 シラバス確認・演習ノート
第 2 週 : じゃんけんからルールを考える① 三すくみ　じゃんけんにみる犯罪	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第 3 週 : じゃんけんからルールを考える② 文章化のむずかしいルール　じゃんけんのルール	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第 4 週 : スポーツルールの機能① 法的安定性の確保　正義の実現	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート

第 5 週 : スポーツルールの機能② 面白さの保障　ルールは「変わる、変えられる」	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第 6 週 : スポーツルールの構造① 私法的ルールの不在性　公法と私法	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第 7 週 : スポーツルールの構造② 私法的ルールの不在性　公法的ルールと配分的正義	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第 8 週 : スポーツルールの構造③ スポーツルールを形づくるもの　条理的行為規範	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第 9 週 : スポーツルールの構造④ スポーツルールを形づくるもの　刑法的行為規範	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第10週 : スポーツルールの構造⑤ スポーツルールを形づくるもの　行政法的行為規範	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第11週 : スポーツルールの構造⑥ スポーツルールを形づくるもの　組織規範	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第12週 : スポーツルールに見る「形式」の問題① 形式を強要するルール　促進ルール	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第13週 : スポーツルールに見る「形式」の問題② 形式を強要するルール　オフサイド	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第14週 : スポーツルールに見る「形式」の問題③ 形式の定義をするルール　野球ルールの変遷	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第15週 : 社会のなかのスポーツとルール 遊びとしてのスポーツ　スポーツにおける遵法	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第16週 : 生涯スポーツ社会におけるライフスタイルの確立 テスト結果の講評と説明　演習ノートのまとめ	**生涯スポーツ演習まとめ** 振り返りと課題の明確化

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅱ : 地域での体験交流活動を教育内容に含む科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めること。
【知識・理解】	講義で取り上げる鍵概念の理解、スポーツ事象にみられるルールの論理に基づいた生涯スポーツの位置づけを提示できること。
【技能・表現・コミュニケーション】	受講者自身のキャリアや周囲の状況と考え併せ、自らの言葉で語り記すことができること。
【思考・判断・創造】	受講生各自の問題意識と課題解決への提案とその独創性を作り上げること。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	**10点**		**5点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**10点**	**15点**		
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**10点**	**15点**	**5点**	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**10点**	**15点**	**5点**	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めることによる学修の深化を、受講生各自の問題意識と課題解決への提案内容の具体性について確認する。演習ノートは評価後、受講生へ返却する。各回の演習ノートの評価得点は、優３点・良２点・可１点・不可０点とする。
発表・その他（無形成果）	講義中の発表や発言の内容にテーマに対する関心・意欲・態度について確認する。特に、独創的な考え方を論理的にコメントすることが望まれる。